

# 交通死亡事故多発 「非常事態宣言」発令中

一瞬にしてわたしたちの幸せを奪い去る交通事故。今年に入り市内で死亡事故が多発し、すでに6人(平成19年6月末現在)の尊い命が奪われています。

こうした事態を受けて篠山市交通安全対策連絡会議(会長・篠山市長酒井隆明)は7月5日、交通死亡事故多発「非常事態宣言」を発令しました。ここでは、交通事故防止への取り組みを紹介するとともに、悲惨な交通事故をなくすため、今一度、交通安全の重要性を一緒に考えましょう。

■問い合わせ 生活部市民課 ☎5521-5242



(兵庫県警察本部提供)

## 交通死亡事故多発「非常事態宣言」

篠山市では、今年に入り交通死亡事故が多発し、わずか半年で昨年比倍増の6人となり、残念かつ予断を許さない事態となっております。

市民、事業者、行政が、この危機的状況について認識をあらたにし、交通事故をなくし、尊い命を守るため、ここに交通死亡事故多発非常事態宣言を発令します。

「安心安全のまちづくり」をめざし、安全で快適な篠山市を実現することは、篠山市民すべての切実な願いです。

市民総ぐるみで交通事故防止の徹底を図り、市民一人一人が交通ルールを守り、交通マナーを高め、交通事故の防止に取り組むことを宣言します。

平成19年7月5日  
篠山市交通安全対策連絡会議  
会長(篠山市長) 酒井隆明

とともに、公用車に「非常事態宣言」のステッカーを張り注意を喚起。同連絡会議でも、市内幹線道路に啓発のぼりを立てるとともに、小・中学校、高校および事業所にチラシを配布して事故防止を訴えていきます。

ところで、今年の交通死亡事故はいずれも、70歳以上の高齢者が犠牲

になっていきます。同連絡会議は、「非常事態宣言」の発令に先立つ6月21日、「高齢者交通事故防止対策部会」(塚本幸隆部会長)を開催。部会では、高齢者の自転車やミニバイクなどに張り付ける「高齢運転者標識」を約2千枚作製し配布しました。



## 篠山市の宝を守るため 事故防止に全力で取り組む

多発する高齢者の交通死亡事故。相次ぐこの悲惨な事故を受けて、小林交通課長は「篠山市の宝である高齢者が犠牲となられたことに、怒りと悲しみを感じます」と話されます。

現在市内では、3年ぶりとなる交通死亡事故多発「非常事態宣言」を発令。この状況の中で、「篠山警察署は、飲酒運転、速度超過、交差点関連違反(信号無視・一時不停止・横断歩行者妨害など)の取り締まりを重点的に行っていきます」と話されます。さらに、「車両後部に巨大な電光掲示板を設置した『サインカー』で、市内を巡回していきます」とその取り組みが話されます。

また、7月4日に28の関係機関などによる「篠山市交通安全対策連絡会議」が開催。7月17日には同連絡会議による交通事故防止キャンペーンとして、市内4カ所のショッピングセンターなどで、高齢運転者標

識」を配布し、事故防止を呼び掛けました。

さて、8月1日から10日まで、交通安全県民運動・夏の交通事故防止運動が実施されます。「これから夏休みを迎え、多くの方が篠山を訪れることになりましたが、市外から訪れる方に対しても積極的に啓発を行います」と小林課長。最後に、「これ以上悲惨な事故を繰り返さないよう、事故防止に全力で取り組んでいきます」と力強く話されています。



篠山警察署交通課長  
小林竜太さん

## 交通事故防止の心得

市内の交通事故死者数は6人中6人が高齢者です。その原因として、交差点での事故、高齢者が道路を横断中に車にはねられる事故、高齢者のドライバーが要因となる事故があります。皆さん、次のことに注意して、交通事故防止に努めましょう。

◎早めにライトを点灯し、自車の存在をアピールするとともに、歩行者や他車をいち早く発見しましょう。

◎薄暮時から夜間にかけて外出される歩行者・自転車の方は、タスキなどの反射材を活用し、運転者から発見されやすいようにしましょう。

◎信号や一時停止などの交通ルールを守り、譲り合いの精神をもって安全行動を心掛けます。

◎隣近所や家族で話題にするなど、交通安全に関心をもち、注意しましょう。



電光掲示板付車両「サインカー」。ドライバーに交通安全を呼び掛けます

